

第 38 回春季講演大会（2024年）の盛会を祈念して



組織委員長・東京理科大学教授

兵庫 明

第 38 回春季講演大会（2024年）が3月13日（水）～15日（金）の3日間の日程で、東京理科大学野田キャンパスで開催されます。

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症（以下、コロナと略）の位置づけが、新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）から、5類感染症に変更となりました。厚生労働省のホームページには、「三つの密」の回避、「人と人との距離の確保」などについて、「政府として一律に日常における基本的感染対策を求めることはない。」という見解がだされております。これにより、マスクの着用などは個人や事業者などの判断に任せ、徐々にコロナ前の生活に戻って参りました。多くの大学においても授業は対面に戻りつつあります。今回の開催地である東京理科大学においても対面での授業が基本となっております。ただ、まだ完全にコロナが収束したわけではありませんので、多様な方法にて授業を行うという方針で、オンラインでの対応も残っております。

このように様々な状況の変化のある昨今ではありますが、今回の春季講演大会は昨年を引き続き対面とオンラインを併用するハイブリッド形式での開催といたしました。これは昨年のハイブリッド開催において、対面のみでは会議などの都合上、もしくは、コロナの影響が心配で、対面参加を躊躇したが、オンラインの併用により参加可能であったという声があり、残して欲しいという要望があったためです。コロナで消極的に進んだオンライン配信でしたが、ソフトウェアや機器の急速な進歩により、今では比較的容易に実現できるようになりました。これには実装技術も大きくかかわっており、皆様の中には自身で研究や開発された技術が様々な実装され感慨深い思いをお持ちの方もいらっしゃるかと思います。ただ、このように画期的なオンライン配信ではございますが、やはり対面がよい、といった声も多く頂いております。つまり、現状の大会ではオンライン配信では実現が難しい課題がございます。例えば、講演が終わった後の休暇の際にもう少し質問や議論をしようといったことには不向きです。また、対面ならではの、懐かしい方や論文でしかお名前を存じていない方に偶然出会って議論でき、疑問が解決できた、もしくは、今後に繋がったなどです。このように対面とオンラインはそれぞれ一長一短がございますが、組織委員長の私としては、是非とも多くの皆様に会場まで足をお運び頂き、対面にてご参加頂きたく、関係者と共に会場や企画の準備などを行っており、皆様を心地よくお迎えしたいと思っております。

東京理科大学野田キャンパスでの開催は今回で3回目となります。前回は平成30(2018)年でしたので、すでに6年の歳月が流れました。野田キャンパスは千葉県野田市にあり、最寄駅は流山市にある運河駅で、秋葉原駅から約40分で到着します。前回来られた方は、キャンパスの変化（特別講演は、新棟の講堂で行う予定です）を、今回初めてお越しの方は、自然が残るキャンパスもお楽しみください。もしかすると桜が出迎えてくれるかも知れません。会場や中庭や食堂などでワイワイガヤガヤと皆様の白熱した議論の音が聞こえてくるのを楽しみにしております。なお、今回は、従来の「スポンサー」と「ものづくりセッション」を統合し、新たな「スポンサーセッション」として開催し、スポンサーの皆様から「広告」ならびに「展示ブース」だけでなく「ものづくり発表」も可能としました。さらに、3月14日（木）に表彰式、特別講演、そして交流会を行う予定です。対面はもちろんのこと、会場にお越しになれない参加者の皆様に対しても、昨年の経験を活かしてご満足頂けるようなハイブリッド開催を行いたいと準備しております。準備にご尽力頂いている組織委員、実行委員、プログラム委員、学会事務局のご関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、第 38 回春季講演大会にご参加の皆様にご挨拶申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍とエレクトロニクス実装学会のさらなる発展を祈念いたしまして、開催に向けてのご挨拶とさせていただきます。